

いじめについて考える日について

今日は大阪市教育委員会が定めた「いじめについて考える日」です。この日を設定した目的は

- 1・「いじめについて考える日」を設定することにより、「いじめはいつでも、どの子どもにも、どの学校においても起こりうる」という認識のもと、「いじめは生命をもおびやかす行為であり、人間として絶対に許されない行為である」ことを学校全体で再認識する。
 - 2・「いじめを許さない学級・学校づくり」は仲間づくりの基本であることから、子どもたちがお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考える機会とする。
 - 3・学校が中心となって取組を積み重ねることで、児童生徒・教職員のみならず家庭や地域全体で「いじめ防止」の意識を高める。
- です。

これをふまえて、次に実際にあったいじめの話聞いてください。

中学校2年生男子のOはある時、友達のTから、クラスの女子Kについて、「あいつ、最近うっとうしくない？」という話を聞くようになりました。OはKとは時々喋ることもあり、うっとうしいどころか、比較的好意を抱いていました。でも、そんなことをTの前で言ってしまうと、クラス中に何を言われるか分かりません。Tはクラスの男子の中でも口の立つ存在として一目置かれていたのです。なので、その時は「そうやな～」と話を合わせておきました。

しばらくして、TからKについて、「他の男子数名もKのことを嫌がっているの、そのメンバーでKを無視しないか？」と提案してきたのでした。Oは心の中では反対しましたが、他の男子もそういつているなら、反対してTを敵に回すようなことになれば、クラス内での居場所がなくなったり、余計な噂を流されたり、今度は自分がいじめられる立場になることを恐れたので、Oは男子数名によるKへの無視、いわゆるいじめに加わりました。最初は嫌々していたOですが、Kが困っている様子を見たり、男子数名で次はどんな嫌がらせをするかを考えたりするのが楽しくなっていたのです。そこにはもう最初のOの姿はありませんでした。

幸い、Kの友達Sが見るに見かねて担任の先生にこの一件を訴えてくれ、このKへのいじめは終わることができました。そしてその時、呼び出されたOは担任から次のような話を聞くことになります。

「KはTに無視されたり、悪口を言われたりしたことよりも、以前は喋っていたあなたから無視されたり、悪口を言われたことが一番悔しいし、悲しいし、腹が立つ、と言っているよ！」

これを聞いたOはとてもショックを受けました。その時のOの心の中は「どうして自分が一番Kから恨まれるんだ！言い出したのはTだし、Kに対する嫌がらせにしてもTよりは少

なくしたつもりだったのに・・・」というものでした。しかし、そのあとに気づいたのです。自分が勇気をもっていけばいじめを止めることができたことを・・・。

文科省の調査によると小学校 4 年生から中学校 3 年生までの 9 割以上が被害者であれ加害者であれ、いじめに関わったことがあるそうです。みなさんも心当たりがあるでしょう。その中で言えば、〇と似た立場に立った人が多いのではないのでしょうか？その意味では、一人一人がいじめを止める、参加しない、それが駄目なら近くの大人に訴えることができれば多くのいじめを無くすことができるのではないのでしょうか？

入学式・始業式で伝えましたが、新型コロナウイルス感染やロシアのウクライナ侵攻、多発する自然災害などに代表されるように、未来は予測不能な社会になっていくでしょう。そんな未来社会の中であなたたちを助け、支えてくれるのは先生や親といった大人ではありません。今、クラスの中にいる仲間です。そんな仲間をなくすようなことは止めてください。人の悪口ばかり言う人を誰が助けてくれるのでしょうか？今、仲間に対してそういうことをしている人がいればすぐに止めましょう。将来の仲間を減らすことになります。

この後は、校長先生の話を受けて、クラスでいじめについて考えてください。